

会長要望シンポジウム

会長要望シンポジウム1 (I-PSY1)

カテーテル的閉鎖術：デバイスの選択

座長:小島 拓朗(埼玉医科大学 国際医療センター小児心臓科), 座長:上田 秀明(神奈川県立こども医療センター 循環器内科)

Thu. Jul 6, 2023 1:30 PM - 3:00 PM 第2会場 (G4)

[I-PSY1-03]心房中隔欠損 ASD小児例に対するカテーテル治療の有効性と 限界 -3つのデバイスの使い分け-

○上田 秀明, 小野 晋, 細川 大地, 菅谷 憲太, 築野 一馬, 池川 健, 若宮 卓也, 金 基成, 柳 貞光(神奈川県立こども医療センター 循環器内科)

Keywords: 心房中隔欠損欠損, GORE Cardioform ASD occluder, erosion

【背景】2006年より Amplatzer Septal Occluder(ASO)、2016年に Occlutech社製 Figulla FlexII (FFII)、2021年に GORE社製の Cardioform ASD Occluder (GCA)を導入した。体格の小さい小児例の場合に、デバイスの選択に難渋することがある【目的】10歳以下の心房中隔欠損 ASD小児例に対するカテーテル治療の有効性と限界の検証【対象と方法】2006年以降、10歳以下の心房中隔欠損 ASD小児例510例を対象とし、ASO、FFII、GCAの留置を試み、それぞれ A群355例、F群119例、G群41例とし、3群間で年齢、体重、欠損孔径、rim長に関する検討を行なった【結果】留置し得たのは345例(97%)、117例(98%)、36(88%)。外科的介入を要したのは、A群で侵食1例、脱落2例、G群で脱落1例。Valsalva洞や左房への有意の圧排のため、留置を断念例はA群10例、F群2例、G群1例。年齢、体重はA群 6.5 ± 2.1 歳、 20 ± 7.1 kg、F群 5.8 ± 2.2 、 18 ± 5.3 、G群 7.0 ± 1.9 、 23 ± 7.0 で、F群で体格の小さかった($p < 0.01$)。欠損孔径、サイジングバルーン径は、それぞれA群 12 ± 4.3 mm、 15 ± 4.9 mm、F群 14 ± 4.7 、 17 ± 5.2 、G群 12 ± 4.0 例、 15 ± 4.6 で、F群で欠損孔径が大きかった($p < 0.01$)。aortic rim、IVC rimはそれぞれA群 3.5 ± 2.9 mm、 10 ± 5.0 mm、F群 2.7 ± 2.8 、 9.5 ± 5.1 、G群 4.1 ± 4.0 、 12 ± 9.0 でF群でaortic rimは短かった。aortic rim、IVC rimが2mm以下に限るとA群130例(37%)、18例(5%)、F群64(54%)、6(5%)、G群9(22%)、1(2%)。posterior rim、IVC rimが共に2mm以下の治療例が、A群11例、F群2例、G群0例。【考察と結論】FFIIは、欠損孔が比較的大きい症例に対しても留置可能であった。後下rimの乏しい症例によりASOが用いられていた。大動脈への圧着が少ない印象を有したが、欠損孔が比較的大きい症例にGCA留置断念例があり、今後の長期フォローとより小さめのデバイスの開発が待たれる。